



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム） （アメリカ、ユダヤ系米国人招へい第2陣）の記録

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国よりユダヤ系米国人 13 名が、2017 年 3 月 5 日～12 日の 7 泊 8 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。省庁講義、歴史的建造物視察、伝統文化体験等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、報告会では訪日経験を生かした、帰国後のアクションプラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

アメリカ 13 名（ブネイブリス）

【訪問地】

東京都、広島県、兵庫県

2. 日程

- 3 月 5 日（日） 成田国際空港より入国
- 3 月 6 日（月） 【オリエンテーション】
【講義】外務省北米局「日本の外交政策」
【講義】外務省中東第一課・第二課「日本・中東の関係」
【表敬訪問】外務省参与 佐藤 英夫 氏
【表敬訪問】藺浦外務副大臣
【企業視察】 マネックス証券株式会社
- 3 月 7 日（火） 広島へ移動
【歴史的建造物】原爆ドーム・平和記念公園・平和祈念資料館
【歴史】被爆体験講話
- 3 月 8 日（水） 【歴史】ホロコースト記念館（福山市）
兵庫県へ移動
【歴史】神戸市文書館（ユダヤ人難民と神戸市民交流資料講義）
【歴史的建造物】北野異人館散策（神戸市の案内）
- 3 月 9 日（木） 【交流】関西ユダヤ教団
【地場産業】株式会社神戸酒心館
【視察】竹中大工道具館
東京へ移動
- 3 月 10 日（金） 【表敬】イスラエル大使館
【ワークショップ】
【報告会】
【交流】日本ユダヤ教団（シナゴーグ）

3月11日（土） 【都内視察】根津美術館
 【ポップカルチャー・歴史的建造物】原宿・表参道・明治神宮
 【都内視察】都庁展望台
 3月12日（日） 【視察】 WBC 観戦（イスラエル vs キューバ）
 成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

東京プログラム

	
3/6 【企業視察】 マネックス証券株式会社 （東京都）	3/11 【都内視察】 都庁展望台（東京都）

地方プログラム（広島・兵庫）

	
3/7 【歴史】 被爆体験講話（広島市）	3/8 【歴史】 ホロコースト記念館（福山市）
	
3/8 【歴史】 神戸市文書館（神戸市）	3/9 【交流】 関西ユダヤ教団（神戸市）



3/9【地場産業】株式会社神戸酒心館（神戸市）



3/9【視察】竹中大工道具館（神戸市）

4. 参加者の感想

◆ アメリカ 社会人

日本人がどうやって戦後復興し、世界経済や外交の場だけでなく、様々な苦難を乗り越え、平和主義の役割を担ってきたかよく理解出来ました。広島へ行き、被爆者の方から学んだことは、とても意義深いものでした。

また、日本とイスラエル関係における相互理解はとても頼もしいものだと感じました。日本は憲法第9条を変更または憲法の修正案を作ることを検討していますが、（もしそうなるとすれば）この関係性や日本が今後どうやって重要な役割を担っていくことができるのかを理解することが、求められると思います。

滞在中は、友人や同僚、家族に日本での経験を知ってもらえるようたくさん発信してきました。日本の人々は私たちを温かくもてなしてくれ、ガイドの皆さんは素晴らしかったと感じています。

◆ アメリカ 社会人

私にとって一番印象に残っているのは、プログラム外で早朝や夜に街を歩き、今日の日本の姿を見たことです。生活の様子はアメリカとはかなり違うと感じました。より規則正しく、皆がスーツを着ていて、夜遅くまで働いていました。

新幹線では、乗っている人の大半がスーツを着た男性だと気づきました。アメリカであれば、もっとカジュアルな服装で、男性も女性も同じくらい見かけるでしょう。初日の外務省の講義で、日本政府は女性の社会進出を増やす努力をしているとの話がありました。滞在中は、街を歩くたび、その変化を探していました。

私が感じたもう一つの日本の印象は、日本人はおもてなしの心を持ち、親切でフレンドリーであるということです。このプログラムを通じて感じたテーマは、日本人がどれだけ平和な社会を望んでいるか、ということでした。

◆ アメリカ 社会人

日本の歴史に関する最初の講義がとても良かったです。被爆者の方から話を聞いたことも良かったと思います。

外務副大臣から日本の外交政策について学ぶ機会を持てたことはとても興味深かったです。また、MONEX 証券の CEO から日本のビジネスについて話を聞いたこともとても良い経験となりました。

東京での滞在は素晴らしかったですが、広島や神戸を訪れることができたことも同じくらい貴重な体験でした。特に、広島を訪れたことは、心痛む経験でした。そこは写真で見える場所で、まさか、自分が訪れることになるとは思っていませんでした。今回のプログラムの中で私の一番印象に残るものでした。

5. 参加者の対外発信

	
語り部講話についての発信 ・ 7 歳で被爆した体験者から貴重な話を聞くことができた。	神戸市内視察についての発信 ・ BBYLN (B' nai B' rith Young Leadership Network) グループは神戸市内の視察を行った。この景色を是非ご覧ください！

6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

JAPANESE SECURITY POLICY SAMANTHA & TAYLOR 	食とエンターテインメントは人を集めるには一番の方法と期待されるため、寿司、お酒を振る舞うシャバットディナーを企画する。食事の場では、今回のプログラム参加者がプログラムを通じて得た気づきや写真を発表し、来賓者の日本への感心を高める。
---	--